

## 委員意見とその対応(第2回 琉球文化継承・振興検討部会 R2.10.23)

| No. | 委員氏名等 | ご意見等の概要  | 対応(処理)方針等   | 担当部局             |
|-----|-------|--|---|------------------|
| 1   | 平良委員  | ◆今後、首里城ができるまでの間に博美などで琉球王朝に関するものについて年1回の開催や、県外の琉球の工芸品を保管している美術館等に依頼し、公開してもらってはどうか。琉球王国時代の素晴らしい伝統技術を各地で発信することにもなるし、それを見ることによって職人も意欲をかき立てられる。 | <p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策4 文化財等の保全、復元、収集】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2)文化財等の復元、修復及び収集</p> <p>② 琉球王国時代の文化財等の調査研究、資料収集</p> <p>国内外に所在する琉球王国時代の文化財等について、これまでの調査結果に加え、引き続き所在調査を進め、その情報を整理・研究し先端デジタル技術を活用して広く公開していく。また、これら文化財等の研究報告会、展覧会等の実施や県内において修復等を行うなど、貴重な文化遺産を守り、次世代に継承する取り組みを進める。</p> <p>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3)国内外へ向けた琉球文化の発信</p> <p>② 在外沖縄関連資料の展示公開の検討</p> <p>琉球の美術工芸品等を保有する国内外の美術館等での公開に取り組むとともに、琉球王国時代の文化財等を国内外に向けて発信する取組を行う。</p> | 文化観光スポーツ部<br>教育庁 |
| 2   | 平良委員  | ◆首里城が復元されるまでという視点で技術者の育成を考えた時には、新人を育てるというよりも、すでにいる従事者に特化していかないと継承は難しいのではないかと。  | <p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策5 伝統技術の活用と継承】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2)美術工芸における伝統技術の継承</p> <p>③ 伝承者養成に向けた支援</p> <p>国または県の無形文化財に指定されている工芸技術を持つ各保存会等に対して、伝承者養成事業等を実施し、技の継承を図る仕組み作りを行うため、保持者の追加認定を適宜行い、技術の継承が適正に行われるよう取り組む。また、伝承者養成には、保持者と連携し、保存会の事務局運営を円滑に進め、会をマネジメントする事務局員の育成も必要不可欠であることから、その人材確保に向けた支援に取り組む。</p>   | 教育庁              |

## 委員意見とその対応(第2回 琉球文化継承・振興検討部会 R2.10.23)

| No. | 委員氏名等 | ご意見等の概要   | 対応(処理)方針等  | 担当部局                      |
|-----|-------|---|--|---------------------------|
| 3   | 嘉数委員  | ◆普及という面からは鑑賞機会を提供するのに加えて触れる、という位置づけも大事であり、教育の現場とも連携する必要がある。<br>授業の中で組踊を鑑賞する、伝統工芸品に触れるなど、子どもたちが親しみをもてるような仕組みも必要。   | ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。<br><br>【基本施策7 歴史の継承と資産としての活用】<br>●施策の方向性<br>(3)次世代を担う子どもたちへの継承<br>① 歴史・文化を観て、学び、体感できる環境の整備<br>首里城の復元事業を文化財保護の啓発や歴史・文化の学習等を通じた人間形成の機会として捉え、地域、関係機関と学校教育が連携し、組踊の鑑賞機会や地域行事への参加、伝統工芸品に触れる機会の提供等を通して教育資源等に生かす取組を進める。                                    | 文化観光スポーツ部<br>商工労働部<br>教育庁 |
| 4   | 嘉数委員  | ◆伝統芸能を発信する環境は整ってきているが、全体的な課題として身につける物への配慮がまだ足りないと感じる。<br>首里城では実物の染め織りを身につけて質の高い芸能を発信。このためには演じる側と工芸分野との連携が必要。  | ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。<br><br>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】<br>●施策の方向性<br>(2)琉球文化の復興と新たな文化の創出<br>① 感動体験の機会を創出する拠点づくり<br>首里及びその周辺エリアにおいて、伝統芸能の鑑賞など、琉球文化を体感できる機会の創出を検討する。<br>また、首里城で演じられる舞台においては、往時を再現すべく、衣装、小道具に至るまでこだわりを持って取り組めるような環境作りに取り組み、演じられる芸能だけではなく、工芸品についても関心が高まるような取組を検討する。 | 文化観光スポーツ部<br>商工労働部        |
| 5   | 鈴木委員  | ◆琉球文化のルネサンスを考えると3つのポイントがある。<br>1つはオープンにすること。文化の人たちはクローズのイメージがある。<br>もう一つが「多様性」。工芸の中でもなかなか横のつながりがなかったりする。新しい文化を創造するにあたっては文化を担当している人だけでなく、IT業界など異業種と交流することも必要。<br>3つめは継続性。他の産業と違い、文化に関しては時間がかかるため、長いスパンで物事を見て、方針と計画を出していく必要がある。 | ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。<br><br>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】<br>●施策の方向性<br>(4)琉球文化を活用した産業振興<br>① 文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発<br>多様性・独自性を持つ本県の文化資源を有効活用し、文化振興と産業振興の両面から相乗効果を生み出すよう、異分野・異業種間の連携を促進する仕組みを構築し、新たなビジネスモデルの創出や新商品開発を推進する。  | 文化観光スポーツ部<br>商工労働部        |